



医療改革を考える市民フォーラム

「誰でも、いつでも、どこでも安心して
平等に医療を受けられるために」

釧路市医師会理事 日向正明
北海道医報通信員

釧路市医師会は、今回の改革は財務省中心の最初に予算ありきであり、小泉総理が国民の健康を本当に考えているのか疑問に思う部分がある。またメディアは、厚生労働省、財務省の垂れ流しの情報をそのまま記事にしてしまう傾向がある。以前より報道関係の方々と一緒に勉強会を重ねる必要があると考えていた。また市民にもわれわれ医師会がどのように国民の健康を考えているのかも余り理解されていない。逆に医師がものを言うて構えてしまう部分もある。それで今回は、医師会を前面にださず、パネラーとして釧路女性団体協議会会長平間さん、老人クラブ連合会副会長鎌田さん、消費者協会会長小笠原さんと当地区衆議院仲野代議士に参加していただいた。主催は医療改革を考える市民フォーラム実行委員会、北海道新聞釧路支社。コーディネータは北海道新聞釧路支社長山谷氏になっていただき、平成17年12月14日市民も含め会場一杯の230名が集まり開催された。

最初に北海道医師会中川俊男常任理事が「医療制度改革と道民の医療」と題して基調講演。「日本の医療制度がいかに素晴らしいか、平均寿命は世界一、WHOの健康達成度総合順位1位。政府が手本にしようとしている米国は総合順位15位にとどまっている。政府が決めた医療制度改革大綱の最大の目玉は医療費適正化の総合推進。適正化というのは抑制、削減を意味する。保険不適用範囲拡大への懸念もある。社会保障が財政赤字の主因という政府の大義名分はうそだ。このまま黙っていれば日本の医療制度は破壊される。世界一の医療制度を守るためにも全国から声を上げていくべきだ」。

その後パネルディスカッションに移り、パネラ

ーから「今までいろいろな医療改革があっても、患者と医者がともに話し合うことはほとんどなかったと思う。今回の改革案は性急すぎる。最近国民負担率の事を言わなくなったと思っていたら、あつという間に出てきて、決まりそうだ。保険料の地域格差も広がってきている。国民皆保険でこんなに差があってもいいのか。」「医療費膨張を防ぐのは必要だが、内容を見ると高齢者狙い撃ち。医療費負担が増えると治療を受けるのを引き伸ばし悪化する、寝たきり老人の要因にもなり孤独死を招きかねない。」その他多くの意見が出され、質問を受け最後に山谷氏が「日本の医療の方向性や論点など医師と患者がフランクに話し合うのが大切。医療費を抑制したいという国の方針のため、医療が脅かされつつある。ある経済学者は、医療を経済に合わせるのではなく、経済を医療に合わせるべきだと指摘している。これは大切な視点だ。こうしたフォーラムを今後も続けていきたい。」と結んで終了した。

なお、詳細については12月19日道新朝刊（地方版）一面使用し報告された。



パネルディスカッション